

編 集 後 記

平成28年度も前半を終え、皆様の教育・研究活動もますますの躍進を遂げて、多忙な日々をお過ごしのこととお察しいたします。本年度も、北海道医療大学歯学雑誌に論文等の投稿並びにお忙しい中、論文の査読をお引き受けいただきました先生方のご支援ご協力を深く感謝申し上げます。

2016年は穏やかな幕開けとなり、3月には北海道新幹線の開業を迎え、北海道の新たな時代への明るい展望をもたらしました。一方で、4月以降に相次いで発生している熊本県熊本地方の地震は未だ余震への注意に予断が許されない状況が続いております。地震により罹災された皆様には心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復興をお祈りいたします。

さて、本号では前号に引き続いて、生化学分野の田隈泰信先生に唾液分泌を含めた生体分子の分泌機構（SNARE仮説）について最新の所見を盛り込んだ続編の総説を投稿していただきました。編集長の特権で皆様より一足早く読ませていただきましたが、先生の魅力的で臨場感のある文章に引き寄せられて、再び研究・科学の楽しさとおもしろさに誘っていただいたような気がしました。また、本号では外国人留学生の皆様からも多数のレビュー並びに原著論文を投稿していただきました。今後も国内外での共同研究の輪がさらに大きく広がっていくとともに、学生間にとどまらず、学部間での研究・教育体制の強い結びつきが生まれてくることが期待されます。さらに、本号には学外で活躍されている本学卒業生の井田有亮先生の原著論文の投稿もいただきました。次号以降も学内、国内にとどまらず世界に向けて幅広く、先生方の素晴らしい研究成果を発表していくことが出来る歯学雑誌を目指し、本誌のさらなる充実に努めていきたいと思っておりますので、今後ともご支援ご協力を賜りますようどうかよろしくお願いいたします。(石井 記)

次号（第35巻、第2号）の発行は平成28年12月31日です。

投稿原稿募集の締め切りは平成28年9月30日必着と致します。期日厳守の上、ご投稿をお願いします。本誌投稿規定は、2016年第35巻、第1号の巻末をご参照ください。